当時の状況（寺島会長談）

2011年3月11日の東日本大震災が発生した時、私は富岡町の施設で働いていました。突然の地震と津波、そして原発事故が重なり、町全体が避難指示区域となり、すぐに避難が必要となりました。私は家族を後回しにして、まずは施設の利用者たちの安全を確保するために全力を尽くしました。

その後、群馬県高崎市に避難しましたが、避難生活の中でも富岡町の民生委員としての役割を忘れたことはありません。避難先から毎月300キロの距離を移動し、定例会に参加し続けました。震災直後の混乱期には、民生委員活動も一時停止状態に陥っていましたが、少しずつ活動を再開していきました。

避難生活を送りながらも、地域住民の支援を続けるために奔走しました。電話や訪問を通じて住民との連絡を保ち、困っている方々の支援に努めました。震災の影響で多くの課題がありましたが、民生委員としての責任を果たすために全力を尽くしてきました。

現在の状況（寺島会長談）

震災から数年が経ち、私たち民生委員の活動も再開されました。震災直後は活動が一時停止していましたが、現在では毎月の定例会や地区部会を開催しています。

避難先での支援活動を行う際には、避難元と避難先の民生委員の連携が非常に重要です。避難者が新しい地域で生活する中で生じる課題に対処するためには、避難元の民生委員が避難者のニーズに合った支援を提供することが求められます。そのためには、避難先の民生委員との協力が不可欠です。私たちは定例会や地区部会を通じて情報交換を行い、効果的な支援を提供できるよう努めています。

避難先での活動において、民生委員自身も避難者でありながら、共に困難を乗り越えるための支援を続けています。これからも住民の支えとなるべく、全力で取り組んでいきます。

Q＆A

Q1: 震災直後、民生委員としてどのように対応しましたか？

A1: 震災直後は混乱が続きましたが、まずは避難先での連絡網を整備し、避難者の状況を把握しました。避難者が各地に散らばっているため、電話や訪問を通じて情報を収集し、支援の優先順位を決めました。私自身も避難生活を送りながら、定例会に参加し続け、情報交換を行いながら支援活動を再開しました。

Q2: 避難元と避難先の民生委員の連携の重要性は何ですか？

A2: 避難元と避難先の民生委員の連携は、避難者のニーズに応じた適切な支援を提供するために不可欠です。避難者が新しい地域で生活する中で抱える課題を解決するためには、避難元の民生委員と避難先の民生委員が情報を共有し、協力することが重要です。定例会や地区部会での情報交換が、その連携を強化する鍵となっています。

Q3: 避難生活で特に苦労したことは何ですか？

A3: 避難生活で最も苦労したのは、避難先での生活の安定と住民との関係構築です。避難先での訪問活動は300キロ以上の距離を移動しなければならず、時間と労力がかかりました。また、避難先の地域住民と信頼関係を築くのにも時間がかかり、その間に避難者のニーズが変化していくことへの対応も大変でした。

Q4: 避難者支援の中で得た教訓は何ですか？

A4: 避難者支援の中で得た教訓は、継続的な関係構築の重要性です。1回の訪問だけではなく、何度も足を運ぶことで、避難者との信頼関係が築かれ、より深い支援が可能になります。また、避難者自身の声を直接聞き、必要な支援を提供するための柔軟な対応が重要であることを学びました。

Q5: 避難先での支援活動の具体例はありますか？

A5: 避難先での支援活動として、定期的な訪問や電話連絡を行い、避難者の状況を把握しています。また、避難者が地域の支援体制を利用できるよう、地元の社協や他の支援団体と連携しています。具体的には、避難者の生活相談、健康チェック、必要な物資の提供などを行っています。

Q6: 避難者からの反応はどうでしたか？

A6: 避難者からは、訪問活動に対して非常に感謝されました。特に、避難先での生活に不安を抱えている方々にとって、定期的な訪問や相談は大きな支えとなりました。避難者から「困ったときにすぐに助けてくれる」という信頼を得ることができ、支援活動の励みとなりました。

Q7: 避難元の民生委員としての役割は何ですか？

A7: 避難元の民生委員としての役割は、避難者が避難先で安心して生活できるよう支援することです。避難元の情報を持っているため、避難先の民生委員と協力し、避難者のニーズに応じた支援を提供します。定期的な訪問や連絡を通じて、避難者との関係を維持し、必要な支援を提供しています。

Q8: 今後の取り組みについて教えてください。

A8: 今後の取り組みとして、避難元と避難先の民生委員の連携をさらに強化し、情報共有を徹底していく予定です。また、避難者のニーズに迅速に対応できる体制を整え、支援活動の質を向上させていきます。これからも住民の支えとなるべく、全力で取り組んでいきます。

まとめ

今回のインタビューを通じて、震災後の富岡町民生委員児童委員協議会の活動には多くの困難があったことが明らかになりました。寺島会長が語られたように、避難元と避難先の民生委員の連携は非常に重要であり、定例会や地区部会を通じた情報交換が効果的な支援を提供する鍵となっています。また、避難者との継続的な関係構築や地域住民との信頼関係の重要性も強調されました。これらの教訓は、私たちの活動にも大いに参考となります。この広報誌の記事が、読んだ委員の皆様や民児協の活動強化の一助となり、より効果的な支援活動を実現するためのヒントとなることを期待しています。富岡町民生委員児童委員協議会の経験から学び、地域住民の安心と安全を守るための活動に活かしていただければ幸いです。